

平成30年度病害虫予察情報・特殊報第1号

平成31年1月21日

鳥取県病害虫防除所

- 1 病害虫名 トマト黄化葉巻病
- 2 病原名 トマト黄化葉巻ウイルス
Tomato yellow leaf curl virus (TYLCV)
- 3 作物名 トマト
- 4 発生確認地域 県西部の一部地域
- 5 発生経過
 - (1) 平成30年9月に鳥取県西部の施設栽培トマトの数株で、葉脈間の退緑、葉巻、頂部の萎縮等の症状が認められた。鳥取県園芸試験場でPCRによる検定を行った結果、本県未発生のトマト黄化葉巻ウイルスが検出され、本症状をトマト黄化葉巻病と診断した。
 - (2) 本病は、平成8年に静岡県、愛知県、長崎県で初めて発生が確認され、これまでに40都府県で発生が報告されている（平成30年11月時点）。なお、鳥取県を除く中国地方4県では平成16年から21年に相次いで発生が確認されている。
- 6 本病の特徴
 - (1) 病徴
発病初期は上位葉が葉縁部から黄化して葉巻症状を示し、その後葉脈間が黄化し縮葉となる（図1）。病徴が進行すると、頂部が叢生し（図2）、株全体が萎縮する。発病前に着果した果実は正常に発育するが、発病後に開花した場合は結実しないことが多い。
 - (2) 伝染経路
本ウイルスはタバココナジラミ（図3）によって媒介される。なお、本種に近縁のオンシツコナジラミは本ウイルスを媒介しない。
タバココナジラミは、罹病植物を吸汁することでウイルスを獲得し、死亡するまで伝搬能力を保持する（永続伝搬）。経卵伝染、土壌伝染、種子伝染及び管理作業による接触伝染は確認されていない。
国内で本病の自然発生が確認されている作物は、トマト、ミニトマト及びトルコギキョウの3種である。
- 7 防除対策
 - (1) 苗を購入する際は、ウイルス症状やタバココナジラミの寄生がない健全苗であるこ

とを確認する。

- (2) 発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋に入れて密閉し、タバココナジラミの拡散を防ぐ。その後、株が枯れ、虫が死滅してから取り出し、土中に埋めるなど処分する。
- (3) 施設開口部に防虫ネット（目合い0.4 mm以下）を設置してタバココナジラミの屋外からの侵入を防ぐとともに、タバココナジラミの薬剤防除を徹底する。また、黄色の粘着板や粘着テープを設置してタバココナジラミの発生を観察し、成虫の早期発見と捕殺に努める。
- (4) 施設栽培では、栽培終了時には残渣や雑草を施設から持ち出し、施設を密閉して蒸し込み（40℃、10日以上）を行い、タバココナジラミを死滅させる方法もある。
- (5) 施設や圃場周辺の雑草等は、タバココナジラミおよびTYLCVの発生源となるため適切に除去する。
- (6) タバココナジラミは氷点下になると越冬できないと考えられているが、密閉される施設は越冬場所になりうるため、冬季に施設の被覆を除去するか施設を開放して低温に当ててタバココナジラミを死滅させる。



図1 黄化、縮葉症状



図2 頂部の叢生



図3 タバココナジラミ（左：成虫、右：幼虫）

写真提供：本田健一郎氏（農研機構）